

令和3年（2021）

■ 11月4日（金）

② 第2区（南側の調査区）の調査

調査区西端から約3mまで、地山であるローム層を検出しました（写真1）。地山はハードローム層で、その直上に、後期前葉堀之内1～2式を主体とする暗褐色土が堆積しています（写真2）。



写真1 地山の関東ローム層

令和3年（2021）

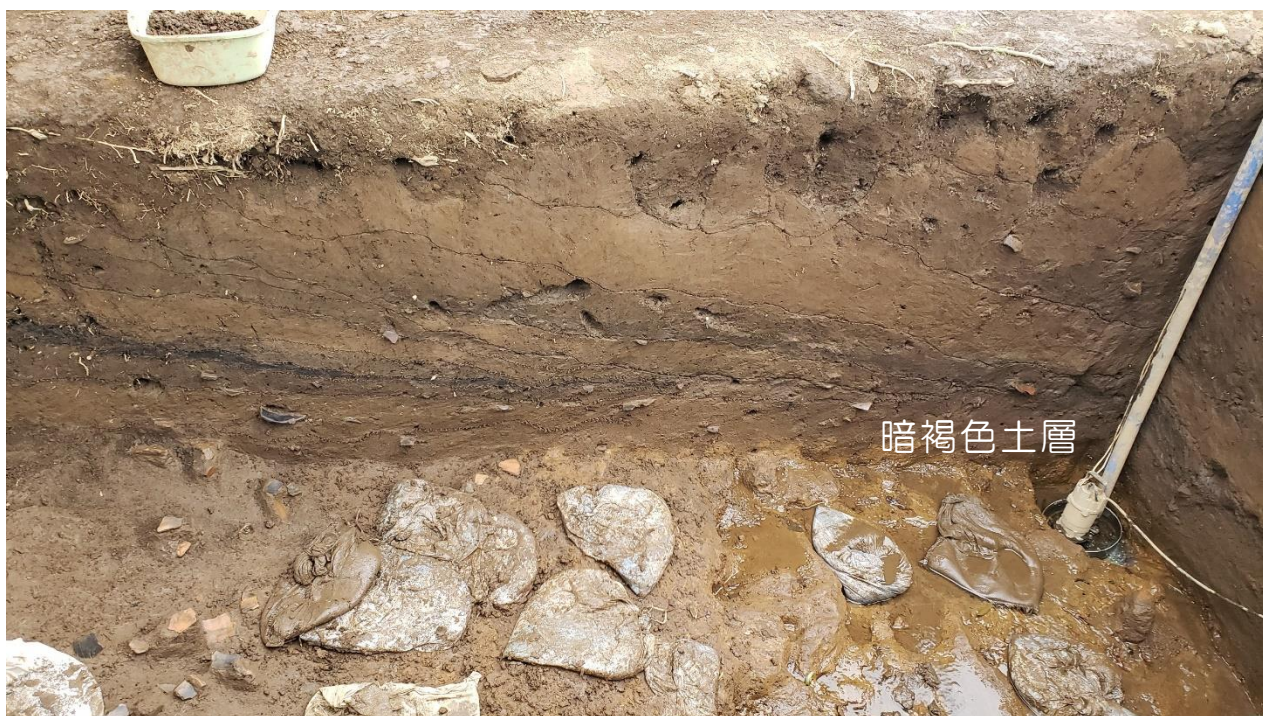


写真2 ローム層の上に直接堆積する暗褐色土層（縄文時代後期前葉）



写真3 東側の調査の様子（排水ポンプを止めた状態）

令和3年（2021）

そして、東側の調査区西端から4～5m の場所では、その暗褐色土を調査しています（写真3～5）。

さらにその東、調査区西端から6～9m の場所には貝層が堆積しており、貝層中からは、15～20 cm、厚さ5 cmほどの灰ブロックが検出されました（写真6）。この貝層から出土する土器は、後期中葉加曾利 B1 式を主体としています。



写真4 東側（斜面上方）での暗褐色土層（縄文時代後期前葉）



貝層

写真5 暗褐色土層の上位に形成された貝層



灰ブロック

写真6 貝層の中から灰のブロックが・・・